

# 小学六年

# 適性検査 D

# 解答と解説

1

問一	イ オ
問二	ウ ↓ ア ↓ イ

問三【例】  
 めもりのじくがー3000から始まっていることを見落として、棒グラフの見た目の大きさだけで判断したんだね

問四【例】				問五		問六	
と	か	の	令	①	0:5%	ウ	
考	ら	都	和				
え	大	道	3				
ら	分	府	年				
れ	県	県	の				
る	へ	に	3				
。	引	引	月				
	っ	っ	に				
	越	越	進				
	し	し	学				
	て	た	や				
	き	人	就				
	た	が	職				
	人	、	で				
	よ	他	大				
	り	の	分				
	多	都	県				
	か	道	か				
	っ	府	ら				
	た	県	他				

2

問一	オ
----	---

問七【例】							
が	が	さ	住	育	増	れ	働
で	活	ら	み	て	や	る	く
き	性	に	た	が	し	保	場
る	化	、	い	し	た	育	所
と	し	人	場	や	り	所	を
思	て	口	所	す	す	を	増
う	、	が	と	い	れ	増	や
。	さ	増	し	場	ば	設	す
	ら	え	て	所	よ	し	と
	に	る	選	で	い	た	同
150	人	こ	ん	あ	と	り	時
	口	と	で	れ	思	、	に
	増	で	も	ば	う	学	、
	を	、	ら	、	。	童	子
	期	よ	え	若	働	保	ど
	待	り	る	い	き	育	も
	す	一	と	人	な	の	を
	る	層	思	た	が	定	預
	こ	ま	う	ち	ら	員	け
	と	ち	。	に	子	を	ら

20

120

100

20

60

20

(配点)

- ① 問二……8点
- ① 問三……6点
- ① 問四……10点
- ① 問七……16点
- ② 問二……40点

他……各4点(①問一は順不同・完答、①問二は完答)  
 計100点

問二

討	な	中	人	も		態	生	ま	生	グ		が	上	ク	に
す	い	で	為	り	人	系	態	っ	物	ー	ハ	吹	が	ト	よ
べ	か	人	的	で	間	が	系	た	を	ス	ブ	け	っ	ン	っ
き	ら	間	に	も	が	く	に	と	捕	が	を	ば	た	を	て
だ	だ	が	入	、	そ	ず	は	い	食	ハ	退	桶	°	食	増
と	°	予	れ	知	の	れ	な	う	し	ブ	治	屋	こ	べ	加
思	生	測	る	り	土	る	い	例	て	よ	す	が	の	て	し
う	態	し	生	得	地	場	生	が	し	り	る	儲	こ	減	た
°	系	た	物	な	の	合	物	あ	ま	も	た	か	と	ら	大
	へ	通	が	い	生	も	を	る	い	ヤ	め	る	が	し	型
	の	り	、	部	態	あ	人	°	、	ン	に	ー	、	た	ミ
	影	に	そ	分	系	る	為	こ	生	バ	放	で	白	結	ジ
	響	機	の	が	を	と	的	の	態	ル	っ	あ	樺	果	ン
	を	能	土	あ	熟	考	に	よ	系	ク	た	る	湖	、	コ
	必	す	地	る	知	え	入	う	が	イ	外	°	に	湖	が
	要	る	の	°	し	ら	れ	に	く	ナ	来		お	の	植
	以	と	生	そ	て	れ	る	、	ず	な	種		け	透	物
	上	は	態	の	い	る	と	も	れ	ど	の		る	明	プ
	に	限	系	た	る	°	、	と	て	他	マ		ー	度	ラ
	検	ら	の	め、	つ		生	の	し	の	ン		風	が	ン

350

300

200

100

【解説】

1 人口と地域の課題をテーマにした問題

問一 B1 情報を獲得する 比較 関係づけ

ア 【資料1 A・1 B】を見ると、女性の人口が男性より多くなる人口区分は55歳以上です。したがって、正しくありません。

イ アで確認した結果から、正しいといえます。

ウ 【資料2】を年代別に見ると、0～14歳の人口割合は減少が続いています。また、65歳以上の人口割合では増加が続いています。また、15～64歳の人口割合では1970～1980年で減少、1980～1990年では増加となっており、増加あるいは減少が続いていません。したがって、正しくありません。

エ 【資料2】を見ると、総人口が最も多い年は2010年で、約1億2800万人です。また、総人口が最も少ない年は2060年の推計で約9300万人です。この2つを比べると、人口割合のちがいは、 $(1億2800万 - 9300万) \div 1億2800万 \approx 0.273$ 、 $0.273 \times 100 \approx 27.3$ より、約27%となります。したがって、正しくありません。

オ 【資料2】から、0～14歳の年齢別人口割合は1970年に24.0%だったものが、2020年には12.0%と半減しています。1970年から2020年までは50年間ですから、正しいといえます。

問二

B2 情報を獲得する 特徴的な部分に注目する 置き換え

資料2から、0～14歳の人口は、1970年の24.0%から減少し続け、2060年には10.2%になっていることがわかります。15～64歳の人口は、1970年の68.9%から増減はあるものの減少しながら、2060年には51.6%となっています。65歳以上の人口は、1970年の7.1%から増加し続け、2060年には38.1%となっています。これらのことをふまえると、最も古い人口ピラミッドは、0～14歳の人口が多いウとなります。その後、0～14歳の人口が減り、65歳以上の人口が増えていくため、最も新しいものがイとなります。よって、古い順にウ→ア→イとなります。

問三

B2 情報を獲得する 比較 置き換え 関係づけ 具体・抽象

【資料3】を見ると、令和3年3月の総人口の棒グラフの高さは令和2年4月の棒グラフの高さの半分以下になっています。しかし、グラフの総人口の縦じくのめもりは111万3千人から始まっており、令和3年3月の総人口は約111万8千人、令和2年4月の総人口は約112万8千人と1万人ほどしかちがいはありません。したがって、だいきさんは総人口の数をよく見ずに棒グラフの長さだけで判断してしまったのだと考えられます。このことを会話文に表します。この問題では、①だいきさんがグラフを読み取りそこねた理由が会話文として書かれているかどうか、②①の内容に過不足がなく、表現や表記に誤りがないかどうかを中心に見えています。

問四

**B2** 情報を獲得する 比較 置き換え 推論 具体・抽象

【資料3】の令和3年2月と3月の社会増減を比べると3月は2月より約3000人減少していることがわかります。会話文に、社会増減とは「住民が引越していたり、他の地域から引越してきたりすること」だと書かれているので、3月に大分県から他の地域に引越した人が、他の地域から大分県に引越してきた人より多かったです。4月は学校の新学年や会社の新しい年度が始まる時期なので、それに合わせて3月は日本全国で引越しが多くなります。したがって、進学や就職、転勤などで大分県から他の都道府県に引越した人が、他の都道府県から大分県内に引越してきた人より多かったですと考えられます。この問題では、①令和3年の2月と3月の間でどのようなことが起こったか推測して考えたことが書かれているかどうか、②①の内容に過不足がなく、表現や表記に誤りがないかどうかを中心にしています。

問五

**B1** 情報を獲得する 特徴的な部分に注目する 再現する

1985年から2015年までの間で人口の減少が最も少なかったのは1990年から1995年の5年間で、最も多かったのは2010年から2015年の5年間で、減少した割合を求める場合には、減少する前の人口をもとにする量とします。

①  $(1237 - 1231) \div 1237 \approx 0.0048\%$  です。

②  $0.0048 \times 100 \approx 0.48\%$  より、 $0.5\%$  です。

③  $(1197 - 1166) \div 1197 \approx 0.0258\%$  です。

④  $0.0258 \times 100 \approx 2.58\%$  より、 $2.6\%$  です。

問六

**B2** 情報を獲得する 推論 比較 関係づけ

世帯数が増え続けているのに、人口は減り続けている理由を考える問題です。世帯数が増えるということは、たとえば、家族で住む家やアパートの数が増えるということになります。それだけで考えれば、世帯数が増えればそれにつれて人口も増えます。ですが、もし、「1世帯当たりの人数」が減ったとすれば、世帯が増えても人口が減る場合があることが考えられます。近年、日本の各地で単身（1人）や2人の世帯が大きく増加し、世帯数は増えているにもかかわらず人口は減少している地域が多く見られます。したがって、ウが正解です。

問七

**C1** 情報を獲得する 理由 比較 置き換え 具体・抽象

【資料6】からわかるように、大分県の人口が減り続けていますが、特に0～14歳と15～64歳の人口が大きく減っています。人口が減少し続けることを「過疎化」といいますが、より多くの人に住んでもらうためには、まず働く場所があること、そして子育てがしやすいなど住みやすいまちづくりをすることなどが有効だと考えられます。現実には、子育てしやすいまちを目指した結果、人口が増加に転じた市町村もあります。みなさんなりに多くの人に住んでもらう方法を考えてみてほしいと思います。この問題では、①大分県により多くの人に住んでもらうためにできると思うことが書かれているかどうか、②①の理由が書かれているかどうか、③①、②に過不足がなく、文章の整合性に誤りがないかどうか、④表現や表記に誤りがないかどうかを中心にしています。

② 自分の意見を記述する問題

問一 B1 情報を獲得する 比較 置き換え 推論

イエローストーン国立公園で観察された生物群集の変化を、白樺湖のバイオマニピュレーションと比較し、あてはまる語句の組み合わせを答える問題です。

まず、白樺湖の事例で「ニジマス」に食べられた「ワカサギ」は、人間から見ると駆除の対象(減らされる立場)です。イエローストーンの事例では、駆逐される立場となったのは「オオカミ」です。この時点で、選択肢はイまたはオのいずれかとなります。次に、白樺湖で「ワカサギ」がいなくなつて増えたのは「大型ミジンコ」ですが、イエローストーンでは「オオカミ」がいなくなつて増えたのは「エルク」です。したがつて、オが正解です。別の生物に注目した場合でも、同じような比較を繰り返していくことで、答えにたどりつくことができます。

問二 C2 情報を獲得する 理由 比較 置き換え 推論

生態系における「風が吹けば桶屋が儲かる」という事象についてあなたの意見を述べる問題です。

第一段落では、白樺湖のバイオマニピュレーションにおいて、「風が吹けば桶屋が儲かる」とは何がどのようになることを具体的にまとめます。

白樺湖のバイオマニピュレーションにおいて生じたことについては、第五段落にまとめられています。①から⑤の文に分けて書かれた部分を利用して要約するとよいでしょう。

第二段落では、第一段落で答えたことをふまえて、ある生態系において人為的に「風が吹けば桶屋が儲かる」という状況をつくつた場合、生態系にどのようなよい影響、あるいは悪い影響

をあたえる可能性があるか、あなたの考えを書きます。たとえば、ウシガエル(食用ガエル・外来種)のえさにしようとして日本に持ちこんだアメリカザリガニは日本各地で繁殖し、在来種のニホンザリガニや水生昆虫の生息域をおびやかす事態になっているなど、もとの生態系を破壊する一因となっています。

第三段落では、第二段落で述べたことについて、そう考える理由を書きます。たとえば、もともとある生態系についてわたしたちはよく知らないために、予想外の影響をあたえてしまう等のことが考えられます。あなたの考え方に沿つてそう考える理由をまとめましょう。

※以下のポイントを中心に見ます。

第一段落について

① 白樺湖のバイオマニピュレーションにおいて、「風が吹けば桶屋が儲かる」とは何がどのようになることが具体的にまとめられているか

② ①の内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

第二段落について

③ 第一段落で答えたことをふまえて、ある生態系において人為的に「風が吹けば桶屋が儲かる」という状況をつくつた場合、生態系にあたえる影響について、自分の考えが書かれているか

か

④ ③の内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

第三段落について

⑤ 第二段落で述べたことについての理由が書かれているか

⑥ ⑤の内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがない

か

全体について

⑦ 段落が問題の指示に従って分けられているか

⑧ 答家用紙の使い方が正しいか

⑨ 誤字・脱字・送り仮名・仮名遣いの誤りがないか

⑩ 字数制限が守られているか